

上海吉祥航空の定期便運航に熱い期待

日本海の冬の味覚、ズワイガニ漁が11月6日に解禁された。山陰では「松葉ガニ」、北陸では「越前ガニ」と呼ぶ。鳥取市の鳥取港で行われた初競りで、高級ブランドガニ「五輝星（いつきぼし）」1匹が過去最高値の500万円で競り落とされ、全国的な話題となった。

山陰の冬と言えば「温泉とカニ」。毎年、大勢の観光客が国内外からやってくる。とくに近年は韓国や香港、台湾からの観光客が増えていた。

ところが今般の日韓関係の悪化。米子鬼太郎空港発着のエアソウルのソウル便が10月から運休止、秋、冬の韓国人客をあてにしていた鳥取県内の観光業者を落胆させた。

今年1～6月の鳥取県内の外国人観光客宿泊者数8万7870人のうち、韓国人客は3万420人で最多の約39%を占める。それだけにソウル便の運休が与えた衝撃は大きかった。

追い打ちをかけたのが、鳥取県境港市の境港と韓国・東海（トンヘ）、ロシア・ウラジオストクを結ぶ環日本海定期貨客船の11月末から来年2月末までの運休。空の便に続く定期路線の休止に関係者は危機感を募らせる。

一方、インバウンド（訪日外国人客）誘致に明るい材料もある。米子空港には来年1月から中国の上海浦東国際空港を結ぶ定期航空便が新規就航。上海吉祥航空（上海市）が火・土曜の週2往復を運航する。

山陰と中国本土を結ぶ定期航空便の就航は初めて。鳥取県と人口2400万人規模の中国大都市圏が直行便で結ばれ、観光や地元の企業活動への効果が期待される。

上海の観光客のニーズをしっかりとリサーチして効果的なプロモーション活動を行うとともに、訪日する観光客がストレスを感じないおもてなしに心がけたい。

日本海の松葉ガニ漁は来年3月20日まで。外国人観光客に山陰の「温泉とカニ」を存分に楽しんでもらいたい。

新日本海新聞社 西部本社総局長 徳田真吾



○写真左：寄港した船内から次々と運び出される生きのいい松葉ガニ＝11月7日、鳥取市賀露町西4丁目、鳥取県漁協賀露支所

○写真上：運休前最後の米子－上海便に手を振る見送り客＝9月29日、境港市の米子鬼太郎空港